
チロベえ

木と蜜柑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チロベえ

【Nコード】

N1002I

【作者名】

木と蜜柑

【あらすじ】

幸は同窓会きょうかいの席で、ある人物の姿を探す。しかし、その姿は見当たらず、旧友の誰もたれが彼の存在を忘れていた。けれど、幸はあの少年をはつきりと覚えていた。

「あれ、幸まゆったら全然飲んでねえぜ？」

乾杯の音頭、懐かしい顔ぶれが一斉にわいわいと酒を飲み交わす中、幸は一人だけきよるきよるとある人物を探していた。

「あさ、あいつは？ほら、6年の冬に少しだけうちのクラスにおつたじゃろ、白部しらくって」

子どもの頃ガキ大将だった岩田は、もうほとんどジョッキの中のビールを飲み干してしまっていた。ごとんと散らかったテーブルの上上にそれを置くと、小さく首を捻った。

「白部？誰じゃそれ？」

岩田は、おしゃべりに華を咲かせているクラスメイト達に、白部白部って知つとるか、と聞いて回るが、誰もがさあと首を傾げるだけで、また元の話の続きを始めてしまう始末。幸は、僅かな期間ではあったが、忘れてはいけない少年がいたことを、はつきりと覚えていた。「チロベえじゃよ？覚えとらんのか？」

岩田は、はつとしたような顔をして、急に声を落として言った。

「お前、知らなかったんか？わしも噂で耳にしたらだけじゃが、あいつ、ドイツに渡った後、手術がうまくいかんかったかなんかでな、半年程後に亡くなつとるんよ」

幸は、ぼとりと割り箸の一本を手から滑らせた。まさか、あのチロベえが……、と。

6年生の冬、小学校生活も残りわずかのこの時期に、突然時季外れの転校生がやってきた。東京からきたその少年は、背が小さく、いかにも病弱でもやしみたいに青白かった。おまけに虫眼鏡みたいな分厚い眼鏡を掛けていて、そのレンズの奥で大きな目がギョロギ

ヨロと動くものだから、苗字の『白部』を皮肉った、『チロベえ』という仇名がひっそりと子ども同士の間で広まったのだ。

幸は、この少年を一目見たときから、

(なぐんじゃ、このちんちくりんは！)

と、馬鹿にしていた。

いつも体育は休んではかりだし、何よりこの間抜けな見た目がダサくて仕方なかったのだ。

そんなチロベえだったが、なぜかこの幸にだけはよくなつた。

というのは、病弱な自分とは反対に、活発で運動もよくできる幸に憧れを抱いていたのかもしれないが、特に、幸が誰にでも世話を焼く姉御肌であつたせいである。

内心では馬鹿にしつつも、学校でよくチロベえを庇ってやっていたから、チロベえは幸の金魚の糞みたいにも鬱陶しい程ピツタリとひつついて回つた。

「僕ね、来週からドイツに手術受けに行くんだ。生まれつき心臓の病気だね、大きな手術になるから、ドイツに行くまでの少しの間だけ、こつちのおばあちゃんの家に来てたんだ」

雪の降る寒い日だった。いつもの帰り道、チロベえは何やらいつもと違った様子でこっそりと幸にそのことを告げた。そのとき、幸に紙切れのような物を手渡してきたのだ。学校で使った算数のプリントの裏紙だったせいで、幸はもう少しのところまで、

(なんじゃ、ゴミなんか渡しよって)

と捨ててしまいそうになったが、よく見ると、そこにはミミズの字でこう書いてあつた。

『さっちゃんいつもありがとう。大人になったらばくは飛行機のパイロットになります。そのとき、さっちゃんを一番さいしょにとなりに乗せてあげます。』

今考えると、あれは、幸にとつての初恋だったのかもしれない。
今もあのときの紙切れは家の机の中に大切にしまつてある。それ
に、幸は知っていたのだ。あの虫眼鏡のレンズを外すと、チロベ
えははつとする程綺麗な瞳をしていたことを。

（そうか……、チロベえは……）

幸は、ビール瓶をそつと隣の空席に置いた。ここが操縦席。ビー
ル瓶が操縦機、お皿がボタン。
エンジン点火、シートベルト着用確認。

（チロベえ、初飛行じゃ！おめでとう）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1002i/>

チロベえ

2010年10月11日17時11分発行